

**令和3年度 第1回八王子市多文化共生推進評議会
議事要点録**

開催方法	オンライン会議による開催（オンラインでの出席ができない評議員は書面参加）
開催日	令和3年（2021年）6月11日（金） 午後6時30分～7時45分
出席者	森茂座長、遠藤評議員、岡林評議員、奥野評議員、河西評議員（書面） シュレスタ評議員（書面）、館山評議員、ドミー評議員、花輪評議員、劉評議員（書面）
欠席者	なし
配布資料	評議会次第 資料1 八王子市多文化共生推進プランに基づく取組状況 資料2-1 令和3年度市民アンケート調査について 資料2-2 令和3年度外国人市民アンケート設問検討資料 資料2-3 令和3年度市政モニターアンケート設問検討資料

1. 八王子市多文化共生推進プランに基づく取組状況について

- ・オンラインでの通訳や翻訳アプリの導入など、ICTの活用が進んでおり、今後も拡充できると良いと思う。日本語学習の機会もオンライン化できると、場所や時間の都合で諦めていた方も、参加できるようになると思う。

【事務局の回答】

コロナ禍と言われる中、オンラインによる学習は有効であると考えている。市では、若者の就労支援を行っている施設「地域若者サポートステーション」において、外国人を対象としたオンラインによる日本語学習環境を整備している。また、昨年6月からは、文化庁により、日本語学習サイト「つながるひろがるにほんごでのくらし」の運用が開始された。こういった日本語学習手段の周知・活用を図っていきたい。

- ・2019年に「日本語教育の推進に関する法律」が施行され、在住外国人の日本語教育を受ける機会の充実を図ることとなっている。市で関連する事業を教えてほしい。

【事務局の回答】

市では日本語教室を主催しているほか、福祉部門では介護職に関する日本語教室も開催している。また、若者の就労支援を行っている施設ではオンラインによる日本語学習環境を整備している。そのほか、市内のボランティア団体も個別に教室を開催しており、市ではその支援・周知を行っている。

今後も国等の動向を踏まえつつ、他部署と連携しながら事業の展開につき検討していきたい。

- ・留学生対象の事業について、日本語学校の生徒への支援もさらに充実が図られている。とても良いことだと思う。

- ・「留学生のための生活ガイド」「はじめてのごみの出し方ハンドブック」は、非常にわかりやすく、よくできていると思う。各大学・日本語学校の在学学生支援用のサイト等でも周知を行うといいと思う。

【事務局の回答】

データの提供や、各学校の支援用ページにリンクを貼ってもらうなど、周知を積極的に進めていきたいと考えている。

- ・「はじめてのごみの出し方ハンドブック」は、日本人の学生にも見てもらいたい内容だ。
- ・多言語化が進んでいることは素晴らしいこと。外国人向け情報誌「Ginkgo（ギンコ）」の内容も外国人にとって良い内容だと思う。
- ・就学対応や進路指導など、子どもの教育に関するお知らせはとても多く、多言語で資料が作成されていたとしても、外国人の親は追い切れていない印象がある。八王子国際協会では「日本語を母語としない親子のための高校進学ガイダンス」を実施しているが、同様に就学前のガイダンスの必要性を感じる。各種資料は非常によくできているが、解説や通訳を交え、しっかり制度等を理解してもらう場が必要だと思う。
- ・文科省では「かすたねっと」というサイトで教育関連の資料の共有を行っているが、うまく活用すれば、市の事務の負担も減ると思う。
- ・桑都日本遺産センター 八王子博物館（はちはく）の説明用多言語アプリについて。自分の住む地域のことを知ることは、安心して暮らすためにとても大事だと思う。愛着が湧くきっかけにもなる。日本語がまだ不自由な方も楽しめるような取り組みがなされたということなので、PRをして、活用ほしい。

2. 令和3年度市民アンケート調査について

- ・子育て・教育の分野では、悩んでいる方が多いと聞いている。日本語ができないため、勉強についていけない、日本の学校への進学を諦め母国に帰らざるを得ないという人もいる。課題がしっかり把握できるアンケートの設問や選択肢を検討してほしい。
 - ・外国人市民アンケートの対象者について、住民基本台帳から無作為抽出となっている。単純に無作為抽出を行うと、特定の国籍に偏ってしまうことも考えられるが、国籍に考慮した抽出がなされるのか。
- 【事務局の回答】
- 前回の外国人市民アンケートも住民基本台帳からの無作為抽出だった。その際は国籍のバランスも加味したうえで抽出を行った。今回もいたいと考えている。
- ・市政モニターアンケートの対象者100人につき、無作為抽出のうち「地域、年齢、性別等を考慮し、適当と認める者」となっているが、どのように選任するのか。

【事務局の回答】

まず無作為抽出した方にモニターの依頼をする。承諾をいただいた中から、各要素のバランスをとって 100 人を選任する。市政に関心のある方が多くなるので、回答率は高い。

- ・前回の市政モニターアンケートでは、回答から「外国人市民が増えることに対してなんとなく不安を感じる」という人の割合を出した。今度はどの設問でそういった回答を拾うのか。

【事務局の回答】

設問「外国人市民は今後さらに増えていくことが見込まれますが、市内に外国人が増えてくことについて、あなたはどのように考えますか」の選択肢の一つとして「外国人市民が増えることに対してなんとなく不安を感じる」という内容のものを設ける予定。

- ・市政モニターアンケートについて。多文化共生は行政だけが進めるものではなく、「あなたも含め、市民一人ひとりが進めるものである」という意識を持ってもらうという観点も、プランの大事なところだと思う。そういった点では、設問の立て方として「多文化共生のまちづくりを進めるためには、市民の取り組みとしてどのようなことが必要だと思いますか」より、変更前の「外国人市民と協力し合えるようになるために、あなたには何ができるとおもいますか」の方が良いのではないかと。

【事務局の回答】

参考にさせていただき、検討したい。

- ・「多文化共生に関するイベント等に参加していますか？」と聞くのはどうだろうか。

【事務局の回答】

新型コロナウイルス感染症の影響で、イベント等の中止・縮小が多い。回答も影響を受けてしまうと思われる。改めて検討したい。

- ・回答は、身近に外国人等がいるかどうかが大きく影響すると思う。身近にいるかどうかを聞くのも良いのではないかと。

【事務局の回答】

東京都の長期ビジョンでも「外国人と接しましたか」というのは指標の一つになっている。ただ、人と接する中で相手が外国人かどうかを、もはや意識していない場合もある。検討したい。

- ・アンケートの中で性別を聞いているが、「男性」「女性」だけでなく、「その他」や「無回答」といった選択肢も設けるべきではないかと。

【事務局の回答】

市ではさまざまな分野でアンケート調査を行っており、それらの選択肢等を参考に決めていきたい。今年度、男女共同参画課でアンケート調査を行った際は、性別の選択肢を「男性」「女性」「無回答」とした。

- ・このコロナ禍を念頭に、感染症などへの対応について聞くのはどうか。

【事務局の回答】

感染症を含め、災害対策等に関する項目についても検討したい。

- ・コロナ禍で八王子国際協会のイベントが少なくなっている。参加人数も縮小している。そのような中で、どう協会の存在を知ってもらうのかは、協会としての課題であると思う。
- ・在住外国人サポートデスクについては、以前よりもたくさんの方が利用してくれるようになった。外国人にも日本人にも、さらにPRをしてほしい。